

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 伝法川護岸改修における環境配慮の取り組み		
水系/河川名 : 伝法川水系伝法川	河川分類 : 中小河川	
河川の流域面積 : 18.8	整備計画流量 : 250m <sup>3</sup> /s	セグメント : 3
事業 : 河川改修	事業開始年度 : 令和元年度	
目標設定 : なし	段階 : C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な) : 自然河岸、河畔林の保全・再生・創出		
工法(主な) : 引堤、魚道、落差工、帯工等の整備、階段工の整備、管理用道路の整備		
配慮事項(主な) : 河川景観への配慮		

### 背景・課題、目標設定

#### <背景>

伝法川中流域の河川空間は、大小さまざまな自然石が存在し、蜚の放流箇所としても利用されており、生物の生息場になっていることから、地元の自然学習村と協力し、蜚の飼育に適した河川作りを行うこととした。

また、河床には、大小様々な自然石が堆積しており自然石の採取が容易であり、小豆島町は過去から石材の産地である地域の特性をいかし、生物の生息場となる多孔質な空間の確保、景観の連続性を考慮した自然石(練積)による護岸を設計することとなった。



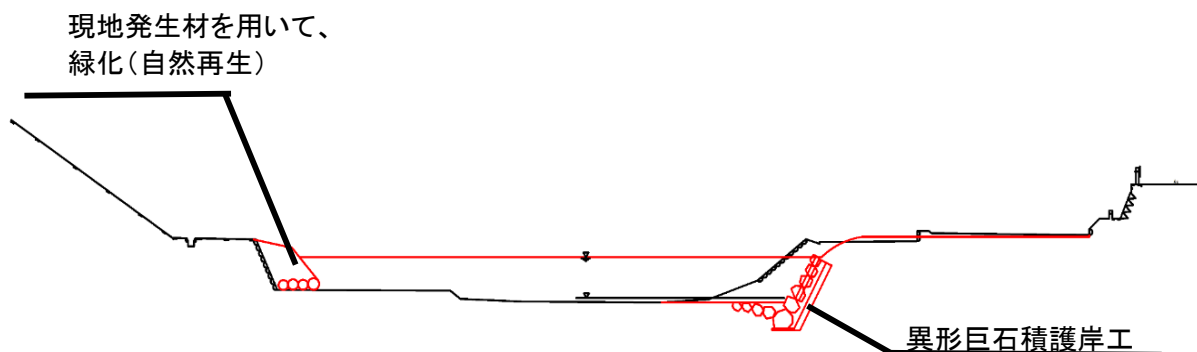
整備前のブロック積護岸



整備前のコンクリート護岸

### 取り組み内容・対策例(1/2)

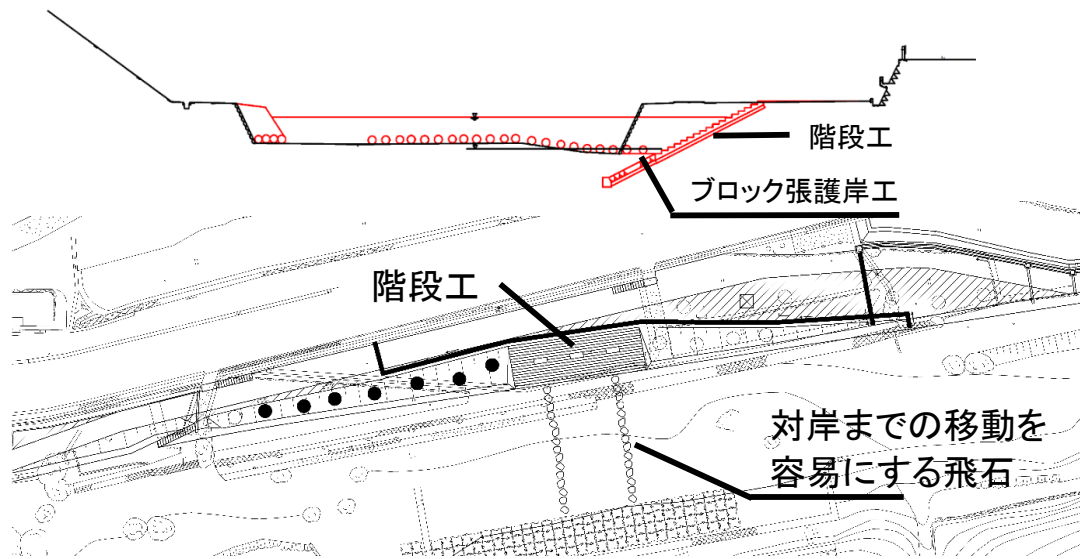
- ① 自然石(練積)護岸
- ② 魚類やホタルの生息に配慮した、異形巨石積護岸
- ③ えさの供給源となる河畔林
- ④ 対岸を捨石で覆土し、植生を回復



取り組み内容・対策例 (2/2)

○公園整備

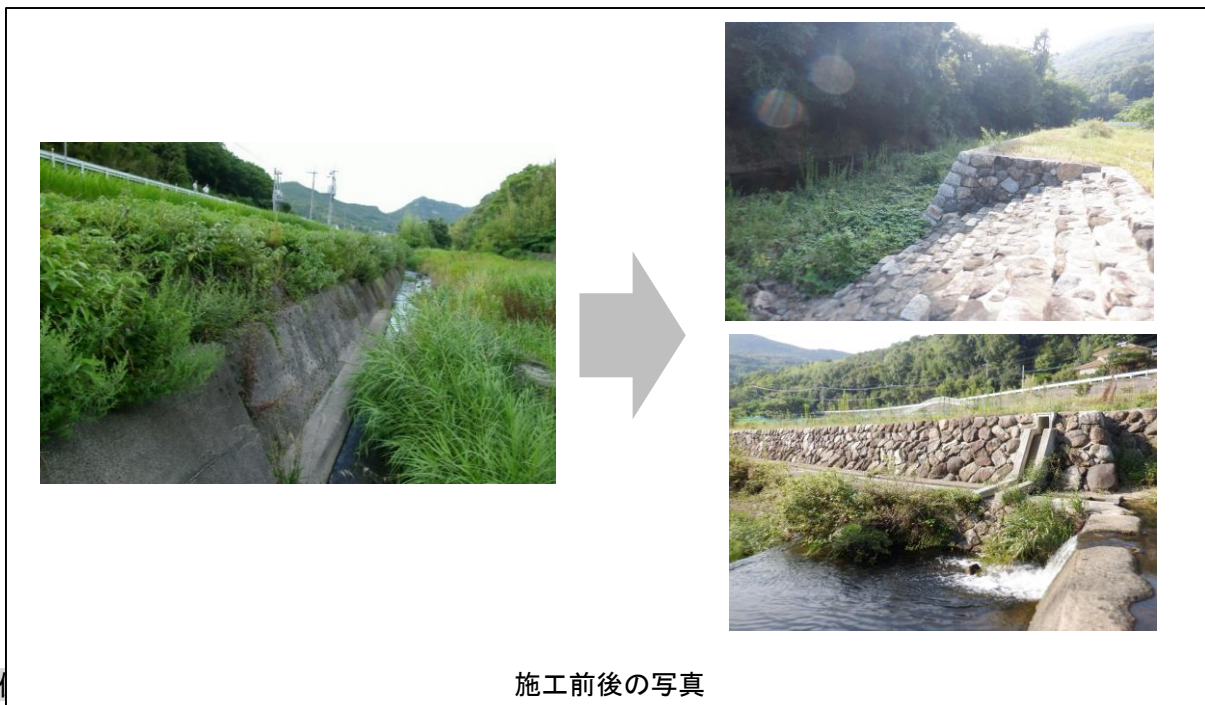
親水性を考慮した階段工の設置、及び飛石の配置。  
 飛石は、現地発生材の自然石の内、上面が平らなものを使用。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

整備前のコンクリート護岸から、魚類や蛍の生息に配慮した護岸になり、蛍幼虫の隠れ場所もできた。  
 公園の整備も完了しており、階段や飛石も利用して、河川を利用できるようになった。

今後は、施工後の蛍の生息について、巨石積護岸によって、蛍の生育環境が維持または創出されているかについて調査を行いたい。また、住民の憩いの場としての景観や親水機能維持を図る。



施工前後の写真